

# 平成29年度 土佐町社会福祉協議会事業報告書

## 〈事業総括〉

平成29年2月7日国は、「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向け改革工程を示し、高知県においても、「高知型福祉・あったかふれあいセンター」を基盤に地域福祉の推進を強化し、生き辛さを抱えるすべての方々を包括的に支援していく体制づくりに向け、地域福祉の重要性が益々高まってきた年でした。

そんな中であって、土佐町でも総合保健福祉計画において、地域全体で支え合うまちづくりの推進を目標に掲げ、「地域包括ケア体制システムの構築を目指す」としています。

近年、土佐町には県内外から健康づくり・福祉活動等の視察研修が相次ぎ、行政・社協・住民が協働して福祉活動を推進している体制が注目されています。しかし、支援の手は地域力低下に追いつかず、連携の強みを生かした、包括的ケア体制の構築にむけて一層努力が必要です。

平成29年度は、福祉のまちづくりをすすめるため行政との連携はもとより、土佐町小中学校・嶺北高校・各大学・福祉事業者・NPO等との協働を大切に、あらゆる方々と力を合わせて事業をすすめることに視点を置き、努力してきました。

法人運営部では、

業務の円滑な推進のため、職員会・主任会において合意形成をおこなひ、事業の進捗状況の確認や職員相互の協力体制をとるために、在宅福祉部・地域福祉部の連携作りに努力してきた。また、あったか職員連絡会を実施し、パート職員の円滑な業務を遂行してきました。

社会福祉協議会は、地域の皆様の協力なしには活動できません。そのためは、活動内容をしっかりとお伝えすることが大切ですが、平成29年度広報活動においては、各地区での説明の回数が少なく、フェイスブックの活用やホームページの作成も含め6より努力する必要があります。

職員の処遇改善として健康診断の一部補助支給を開始しました。また車両や事務機器類の見直しを行い、訪問介護用の車を買替えました。近年ワゴン車の利用頻度が高く、バスの運用と共に今後検討する必要があります。

さらに、個人情報の漏えい防止に向け、ネット環境におけるセキュリティの強化が課題となっています。

在宅福祉部では、

平成29年度には新たに生活支援コーディネーターを設置したことにより、行政のコーディネーターとの役割分担や包括支援センターの各事業との関連について協議してきました。生活課題把握においては、福祉課が実施したアンケートに項目を追加していただき、調査ができました。今後は引き続きアンケートのデータを活かし、支援活動の方向性を見極めていく必要があります。

訪問介護事業においては、介護保険法の一部改正により地域支援事業に移行されたことから、サービス利用者が、地域における見守りや助け合い活動の中で住み慣れた家で暮らせるような支援が求められており、包括支援センターや担当ケアマネージャーと密に連携し、自立生活にむけた支援に努めてきました。今後引き続きサービスの需要と供給のバランスに応じた、訪問介護員の確保に努めてかなければなりません。

行政の各機関との連携を図り、病気や障害・貧困の課題を重ね合わせても方々に対して、伴走的な支援を行うため、関係機関と連携を密にし、チームにおける支援体制をつくることを目指してきました。特に今年、「土佐町ものがたり」の取組と連携し、若い世代の甲子園の利田者が

「上庄町ものがたり」の取組と連携し、Aレイアウトのまこへんの利用者がTシャツのプリントを行う仕事の場づくりができました。

民生委員児童委員協議会・教育委員会・学校との連携を強化し子どもたちの見守り活動にも取り組んできました。11月からは田井医院や民生委員の協力のもと、子ども食堂立ち上げのための支援を行い、平成30年度に県へ登録し新たな活動がスタートすることとなりました。

地域福祉部では、

地域福祉活動計画の活動支援とアセスメントによる支援が徐々に形になり、各地区で主体的な活動ができるよう、行政の地域担当職員と共に、地域力にあわせた支援を行ってきました。

あったかふれあいセンターは、地域サポーターとの打ち合わせを密に行い、地域力を活かしたレクリエーションをおこなっており、背みの保存会の活動をはじめ、地蔵寺では畑作業による農作物の収穫をするなど、地域が主体的に取り組むを行うことにより、生きがい活動となっています。また、あったかふれあいセンターフェスティバルでの展示を目標に取り組みをすすめ、それぞれの地域性を活かした活動ができています。

また、サロンコーディネーターが地域から得た情報を在宅福祉部に報告し包括支援センターと連携した個別ケア支援ができており、徐々に連携体制が整いつつあります。

課題としては、将来的に持続可能な運営に向けて住民の主体性を大切にしながら、地域力を維持していかなければならず、今後益々集落機能が低下する現状を含めて行政とも協議しなければなりません。

ボランティアセンターは、高齢化が進む現状にあつて、新たなボランティアを発掘するため、ボランティア養成講座を実施し、ボランティア登録につながりました。

さらに、高校生や大学生等、若い層の参加に力点を置き、多様なボランティアを受け入れし、若い層とのつながりができ始めています。

また、町内のNPO法人のニーズについて聞き取り調査を実施し、それをもとに平成30年度には、ボランティアセンターのあるべき姿を明らかにしていくため、センターの運営について協議していくこととしました。



あったかフェスティバル

## ◆法人運営部門◆

地域の皆様とのコミュニケーションを積極的に図るとともに、積極的な情報開示に努めました。また基金の有効な運用を協議するとともに、財源確保に努め、地域福祉活動に還元することができました。

### (1) 社会福祉大会の開催

平成29年10月28日(土)に第38回土佐町社会福祉大会を開催し、福祉関係功績者に対し表彰並びに感謝状を贈呈した後、福祉推進校活動や地域福祉活動などの発表を行った。

▶ 参加人数	案内参加者 104人	一般参加者 32人
▶ 被表彰者		
大会長表彰	ご長寿	6人
	模範介護者	2人
大会長感謝状	多額寄附者	10人
ボランティア活動	個人	3人
	団体	1団体
▶ 福祉活動推進校発表	土佐町小学校 4年生	
	土佐町中学校 2年生	
▶ 活動発表	れいほくの里どんぐりの活動について	
	赤い羽根協働募金は、自分の町をよくするしくみ	

(2) 福祉とさちょうの発行 2,300部 3回

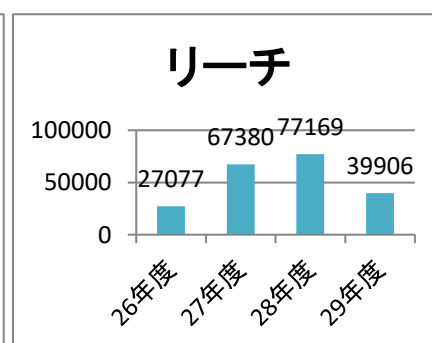
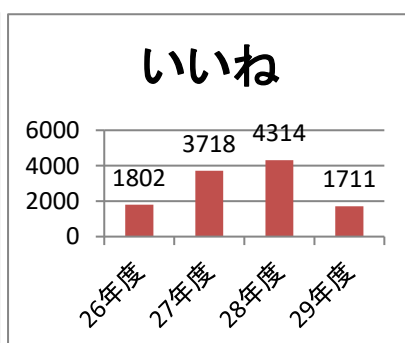
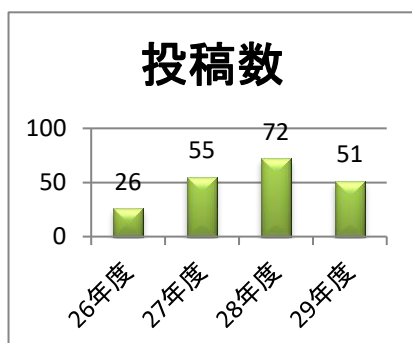
### (3) ホームページの立ち上げを検討

▶ NPO法人SOMAで相談 1回

### (4) フェイスブックの運用

▶ フェイスブックを運用し広報活動を行った

フェイスブック投稿 51回 1,711 いいね 39,906リーチ



- (5) 社会福祉協議会パンフレット等を作成し啓発利用 2回
- (6) 地区長会における事業理解促進 4回
- (7) マスコミ・他の広報紙等への掲載  
 ▶ 高知新聞 「土佐町中学校 呼び起こせ土佐町PRプロジェクト」  
 ▶ テレビ放送 //
- (8) 告知端末放送の活用 随時
- (9) 各地域、団体を対象とした社協事業説明  
 ▶ 老人クラブ役員会にて 1回
- (10) 後援・共催事業の実施  
 ▶ NPO法人 SOMA 土佐町座談会  
 ▶ 実行委員会 佐々井秀嶺氏講演会  
 ▶ 実行委員会 下田昌克氏招聘イベント  
 ▶ トムソーヤアドベンチャースクール  
 ▶ ハピネススポーツクラブ アドベンチャースクール レイホクゴロワーズ  
 ▶ ハピネススポーツクラブ ミニ88カ所 ウォーキングイベント  
 ▶ NPO法人さめうらプロジェクト シェアアルバムin早明浦  
 ▶ ハピネススポーツクラブ 土佐町芝生広場お披露目スポーツ体験  
 ▶ アジアンプロレスチャリティイベント  
 ▶ 活動計画に関するイベント
- 平石あめごつかみ取り大会  
 松ヶ丘三地区合同花見  
 松ヶ丘三地区芋煮会  
 松ヶ丘三地区敬老会  
 相川ららら(棚田ウォーキング 収穫祭)  
 石原サマースクール  
 東部地区運動会

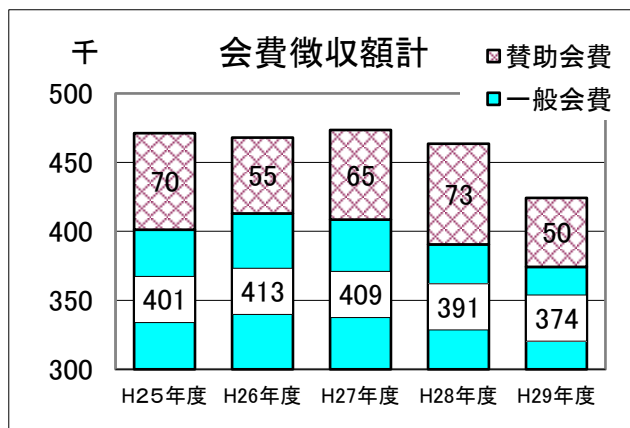
(11) 会費増強にむけた理事会・評議員会による協議

1 回

- 会員加入推進と会費の徴収に努めた

(一般会員:300円・賛助会員:1,000円)

- ▶ 会費徴収額 374,250 円
- ▶ 一般会費 1,250 世帯
- ▶ 賛助会費 50人(役職員等)



(12) 基金の有効活用と運用計画作成

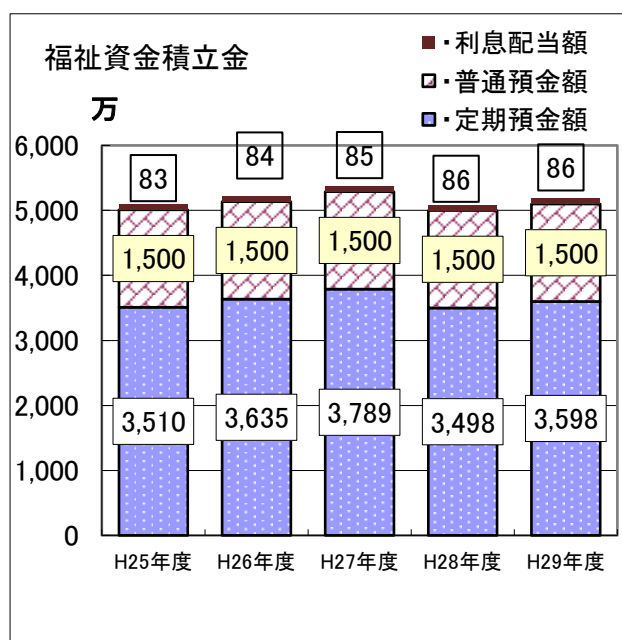
- 福祉基金積立

基金積立額

- ▶ 定期預金額 35,984,680 円
- ▶ 普通預金額 15,000,000 円
- ▶ 利息配当額 863,476 円

- 地域支援金事業の促進 (29年度実施事業)

- ▶ 相川4地区長会 97,000 円
- ▶ 平石地区会 97,000 円
- ▶ いしはらの里協議会 106,000 円



(13) 受託事業等の実施と検証

- ▶ 補助事業 法人運営、心配ごと相談所開設事業、ボランティアセンター活動事業
- ▶ 委託事業 転倒予防教室フォローアップ事業、生活管理指導、職員派遣  
あったかふれあいセンター事業、認知症予防事業(土佐町)  
あったかふれあいセンター機能強化事業、生活支援体制整備事業  
障害者相談支援事業  
日常生活自立支援事業(県社協)  
自立相談支援事業(生活困窮)(中央東福祉保健所)
- ▶ 介護保険 訪問介護
- ▶ その他 障害福祉サービス、団体事務委託

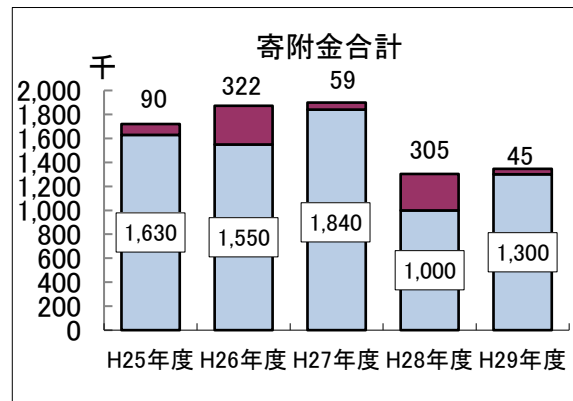
(14) 助成事業に積極的に応募するなど事業資金確保

- ▶ 配分金事業 老人福祉(給食)、福祉育成援助活動(福祉大会・広報)

(15) **募金、寄附についての学習会開催**

- 福祉大会において共同募金の説明 1回
- 寄附活動への理解を促進し、福祉基金・事業資金への寄付を受け入れた

- ▶ 福祉基金寄附金 10人  
1,300,000円
- ▶ 事業資金寄附金 1人・3団体  
45,479円



(16) **共同募金利用団体との募金活動連携強化**

- 共同募金について住民への周知に努め募金活動を実施した
  - ▶ 一般募金  
目標額: 948,000円 実績額: 921,755円
  - ▶ 歳末たすけあい募金  
目標額: 30,000円 実績額: 0円
  - ▶ 共同募金配分金事業(一般募金配分額:534,923円)  
高齢者福祉事業として老人給食材料費と配食ボランティアへの実費弁償費に、また社会福祉大会経費、広報費として活用した
- 日赤奉仕団の活動支援と共に、社資募集を行った
  - ▶ 日赤社資  
目標額: 615,000円 実績額: 587,850円
- 地区長会の協力により、護国神社奉賛金を募り納付した
  - ▶ 納付額: 234,201円

課題を明確にするため検証を重ね、事業を見直し、地域ニーズに沿った事業の推進に努めました。また目標に向かい一致団結して行動できる組織づくりをめざし取り組みました。

(1) **社協強化・地域支援計画におけるPDCAサイクル実施**

- ▶ 9月に中間報告を作成し、推進状況を確認

(2) **職員会における定款・規程・要綱・マニュアルの確認**

- ▶ パートタイム職員への説明 1回
- ▶ 嘱託職員への説明 1回

(3) **行政との事業評価と法改正に伴う事業見直し協議** 2回

- ▶ 出向している職員についての処遇・研修の在り方、生活支援コーディネーターの位置づけや、各事業の推進における方向性について協議

(4) **団体事務の合理化と団体活動支援**

- ・民生委員児童委員協議会 ・老人クラブ連合会 ・遺族会
- ・身体障害者協議会 ・日本赤十字社土佐町分区 ・日本赤十字社中央東地区
- ・共同募金土佐町支会

(5) **理事会(部会)の開催による協議** 5回 (内 部会1回)

(6) **評議員会による評議** 3回

- 理事会・部会・評議員会の開催により事業計画と予算執行の安定かつ効果的な法人運営に努めた

会議人 日程	決議事項	参加人数
第1回理事会 平成29年5月29日 10:00～11:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度事業報告並びに収支決算承認について</li> <li>・平成28年度会計監査報告について</li> <li>・平成28年度補正予算書について</li> <li>・第5次地域福祉活動計画推進体制及び評価委員委嘱について</li> <li>・地域支援金申請助成決定について</li> </ul>	理事 10人 監事 1人 計11人
第1回定時評議員会 平成29年6月14日 10:00～11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事・監事の選任について</li> <li>・平成28年度事業報告並びに収支決算承認について</li> <li>・平成28年度会計監査報告について</li> <li>・福祉充実予算について</li> </ul>	12人
第2回理事会 平成29年6月14日 14:00～14:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長・副会長の選任について</li> <li>・部会構成について</li> </ul>	理事 10人 監事 1人 計11人
第3回理事会 平成29年9月29日 9:00～10:35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員就業規則の改定について</li> <li>・社会福祉大会表彰者推薦について</li> <li>・新規採用正規職員の前歴算定導入について</li> <li>・平成30年4月1日職員採用募集について</li> </ul>	理事 9人 監事 2人 計11人
第2回評議員会 平成29年11月9日 13:30～14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員報酬及び費用弁償に関する規程改定について</li> </ul>	11人
第4回理事会 平成29年12月8日 10:00～11:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘱託職員就業規則一部改定について</li> <li>・職員給与規定改定について</li> </ul>	理事 10人 監事 2人 計12人
第5回理事会 平成30年3月28日 15:05～16:35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度事業計画について</li> <li>・平成30年度法人本部拠点区分収支予算について</li> <li>・評議員改選に伴う評議員選任解任委員会の招集について</li> <li>・理事改選に伴う評議員会への理事推薦について</li> <li>・嘱託職員契約締結について</li> <li>・地域支援金における交付決定について</li> </ul>	理事 10人 監事 1人 計11人
第3回評議員会 平成30年3月29日 15:00～16:05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度事業計画について</li> <li>・平成30年度法人本部拠点区分収支予算について</li> <li>・理事退任に伴う理事選任につて</li> </ul>	計12人

- (7) **評議員選任解任委員会の開催** なし
- (8) **職員会 部会 主任会の開催と充実**
- 主任会・職員会を実施し、健全な法人運営や事業経営をめざすとともに、報告・連絡・相談を徹底し各部門間の連携に努めた。
    - ▶ 職員会 12 回
    - ▶ 主任会 4 回
    - ▶ 在宅福祉部会 4 回
    - ▶ 地域福祉部会 10 回
    - ▶ あったか職員連絡会 6 回
    - ▶ 毎日ミーティングの実施
- (9) **三役会の開催** 2 回
- (10) **職員面談の実施** 2 回 (役職員・事務局長)  
4 回 (個別面談)

専門機関からの支援を受け、コンプライアンスの徹底を図るとともに、職員の資質向上をめざし取り組みを進めました。

- (1) **各研修・学習会への積極的参加**
- 職員の資質向上のため、他の社協への訪問や研修参加に努めた
    - ▶ 法人運営・会計関係 2 日 延べ 6 人
    - ▶ 在宅福祉事業関係 19 日 延べ 23 人
    - ▶ 地域福祉事業関係 18 日 延べ 26 人
    - ▶ 役員研修 2 日 延べ 12 人
- (2) **大学・専門機関からの指導助言を促進**
- ▶ 日本福祉大学 1 回
- (3) **法改正に則した諸規程の見直し**
- ▶ 就業規則(一部改定)
  - ▶ 嘱託職員就業規則(一部改定)
  - ▶ 給与に関する規程(一部改定)
  - ▶ 役員報酬及び費用弁償に關数r規程(一部改定)
- (4) **第三者評価委員の設置** (未実施)



(5) **先進的な社協等との交流及び視察研修及び受け入れ**

○ インターンシップや視察研修受け入れ

▶ いの町社会福祉協議会 あったか職員視察	15人
▶ 善通寺西武地区社協視察	18人
▶ 高知学園短期大学 フィールドワーク研修	15人
▶ 日本福祉大学学び直しフィールドワーク研修	15人
▶ 全国コミュニティライフサポートセンター視察研修	2人
▶ 嶺北高校インターンシップ研修	1人
▶ 日本福祉大学視察研修	2人
▶ 県立大学栄養士実習	5人
▶ 愛南町民生委員児童委員協議会視察研修	32人
▶ 美作大学 社会福祉士実習	1人
▶ 本山町社会福祉協議会 老人クラブ担当研修	3人
▶ 土佐市社会福祉協議会視察研修	15人
▶ 三好市包括支援センター 視察研修	1人
▶ 自治医科大学 実習	5人
▶ 本山町社協視察研修	5人

---

合計 135人

(6) **危機管理の強化(情報漏えい・災害時対応等)**

- データー一時保管用USBメモリーを職員から回収し、個人情報を持ち出さないように注意喚起
- ハードディスクの増設によるデータの保存

(7) **学習会の開催**

- ▶ 年始研修 町との共同

(8) **文書の保存・廃棄等適切な管理**

- 年末に文書整理と廃棄実施

(9) **働きやすい職場づくり**

- ▶ 職員会議で業務中の問題点を共有し、事故防止に努めた
- ▶ 面談等において職員より要望を聞くなどして改善に努めた
- ▶ 検診料の一部負担の実施
- ▶ 嘱託職員の勤務日数を変更することにより、処遇改善を図った

行政・各関係機関との連携をより強化し、地域福祉事業の位置づけを明確にできるよう取り組みました。また、町と一体となり、各諸計画に基づいた事業を推進するとともに、第5次地域福祉活動計画の実現にむけた支援の強化に努めました。

(1) **第5次地域福祉活動計画評価委員会の設置・運営**

- ▶ 6月29日 地域福祉活動計画評価委員会を実施した  
評価委員・オブザーバー 12人 職員 2人 理事 1人

(2) **役職員の地域担当制の整備**

- ▶ 主任会・職員会にて地域担当の業務について協議を行った

(3) **行政各課との連携強化**

- 行政・社協相互の事業の理解と連携を図るため連携会議を開催した
  - ▶ 健康福祉課との連携会議 1回

(4) **議会議員との懇談会開催 (未実施)**

(5) **町・県の実施する連携に関する会議への参加**

町	▶ 集落支援員・産業振興課・健康福祉課・社協の連絡会	12回
	▶ 役場地域担当者リーダー会議	3回
	▶ 役場地域担当者会	16回
	▶ 集落支援員連絡会	12回
	▶ 次年度予算について福祉課との連携会議	2回
	▶ 生活支援・介護予防連絡会	1回
	▶ 土佐町地域ケア推進会議	2回
	▶ 土佐町地域ケア会議(個別ケア会議)	3回
	▶ 土佐町要保護児童対策協議会	3回
	▶ 土佐町要保護児童対策地域協議会実務者会議	2回
	▶ あじさいネット会議	1回
	▶ 障害のある方のケアについて保健師との連絡会	1回
	▶ やまびこ倶楽部打ち合わせ	2回
	▶ れいほく地区障害者自立支援協議会(就労・相談支援部会・プロジェクトチーム会)	11回
	▶ 障害者就業・生活支援センター「ゆうあい」中央東地区連絡会	2回
県	▶ 高知県社協と嶺北地区社協との意見交換会	1回
	▶ 山田養護学校 進路相談会	1回
	▶ 自立相談支援事業ガイドライン等説明・業務委託の質の確保に関する会	1回
	▶ 生活困窮者自立支援事業支援調整会議	2回
	▶ 生活困窮者自立支援事業意見交換会	1回
	▶ 生活困窮者自立支援事業プレ支援会議	6回
	▶ 生活困窮者自立支援事業中央ブロック協議会	1回
	▶ 生活困窮者自立相談支援事業全国研究交流大会事務局打ち合わせ	5回
	▶ 高知県生活困窮者自立相談支援機関協議会	1回
	▶ 高知県生活保護就労支援協議会	1回
▶ 精神保健業務連絡会	1回	

県

連携  
事業等

- ▶ 高知県社協あつたかふれあいセンター推進連絡会 2回
- ▶ 高知県社協 あつたか情報交換会打ち合わせ 1回
- ▶ 高知県社協 市町村社協ボランティア事業に関する意見交換会 1回
- ▶ 高知県・県社協・町福祉課・社協4者協議(あつたかふれあいセンター) 1回
- ▶ 県教育委員会モデル事業説明打ち合わせ(民児協) 1回
- ▶ 高知学園短期大学フィールドワーク打ち合わせ会 1回
- ▶ 高知大学あつたかふれあいセンターへの協働打ち合わせ 1回
- ▶ 高知県児童家庭課との連携打合せ 1回
- ▶ 地域のつどい連絡会 1回
- ▶ 認知症予防事業 包括との打合せ 1回
- ▶ 福祉教育について学校長との打合せ 1回
- ▶ 産業振興課・リブリッジとの事業打ち合わせ 1回
- ▶ 「子ども食堂」立ち上げに向けた検討会 2回
- ▶ 下田昌克さん講演会打ち合わせ 1回
- ▶ 佐々井さん講演会打ち合わせ 2回
- ▶ サニーマートトムソーヤ打ち合わせ 2回
- ▶ アジアンプロレス チャリティ打ち合わせ 1回



## ◆在宅福祉部門◆

身近で気軽に相談できるよう相談体制を強化し、訪問介護等により在宅における自立した暮らしを支援しました。

### (1) 訪問介護における在宅生活支援

○ 嘱託職員が年度途中で減員となったが、需要に合わせた安定供給に努めた

#### ▶ 職員体制

サービス提供責任者:1人(正規職員・介護福祉士)

介護福祉士:2人(非常勤) 2級ヘルパー:3人(非常勤)

#### ▶ 介護保険事業

訪問介護事業

対象者 年間 20人 (平成30年3月現在 14人)

予防給付事業→ 介護予防・日常生活支援総合事業

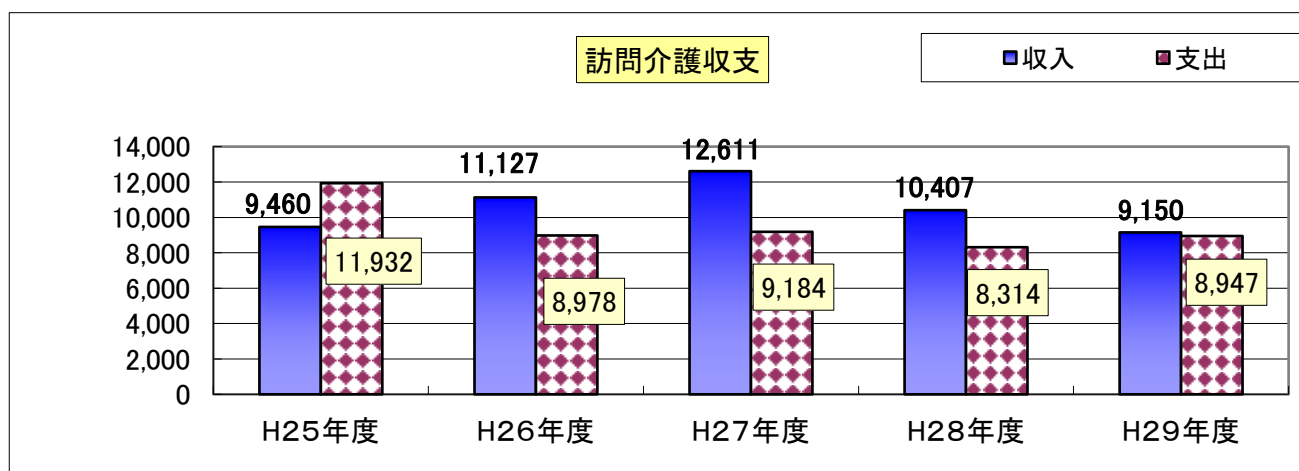
対象者 年間 14人 (平成30年3月現在 5人)

#### ▶ 障害福祉事業

対象者 年間 4人 (平成30年3月現在 4人)

#### ▶ 自立生活支援訪問事業(町委託金対象)

対象者 年間 0人 (平成29年3月現在 0人)



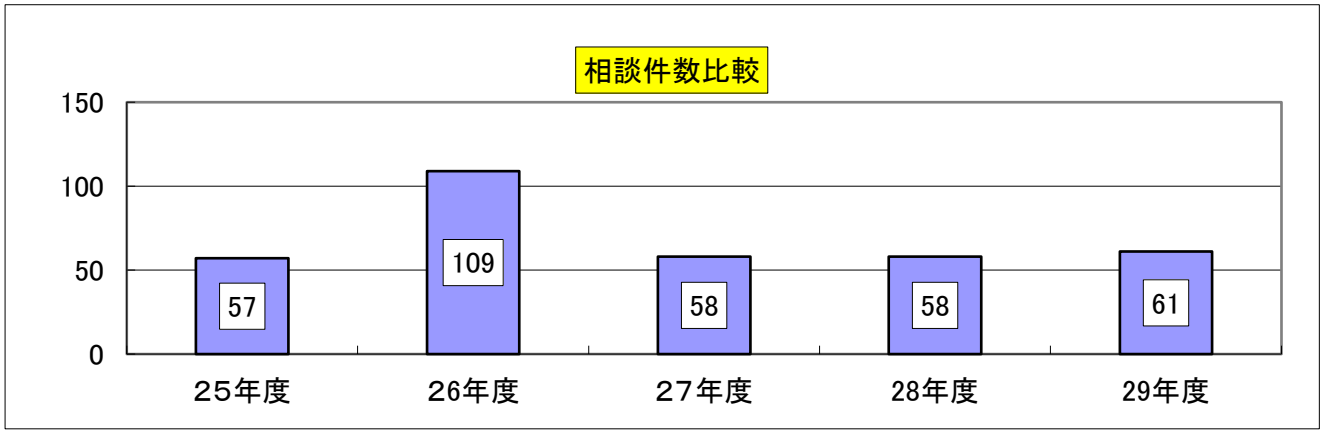
(2) 心配ごと相談所を活用した出張相談対応

12 回

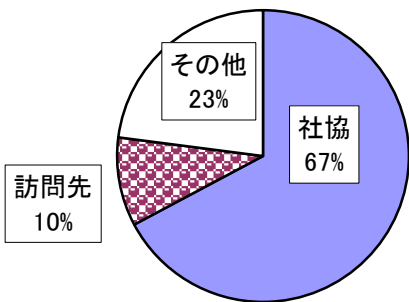
(3) 『きいてねっと』での電話や面談による相談対応

61 回

○ 総合的な相談窓口として相談を受け付け対応した

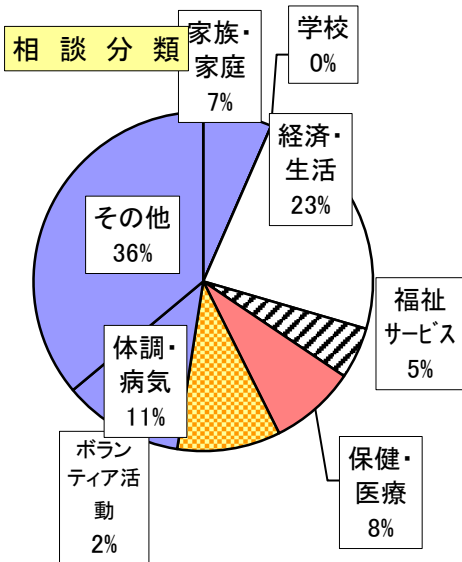
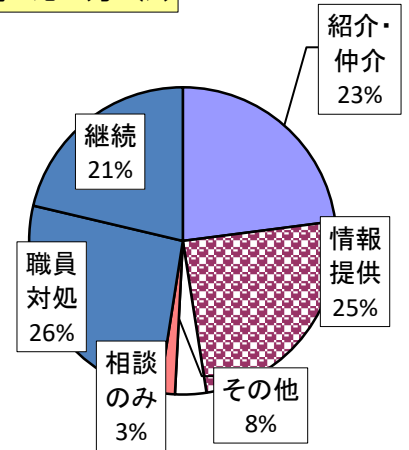


### 相談場所



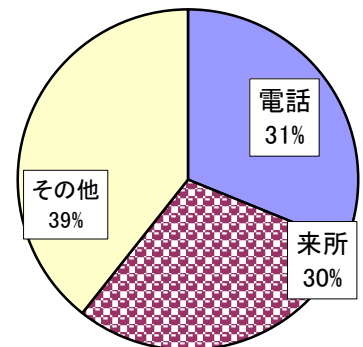
相談場所		相談方法	
41	社協	電話	19
6	訪問	来所	18
14	その他	その他	24
61	計	計	61

### 対応方法



相談分類		対応方法	
6	ボランティア活動	紹介・仲介	14
4	家族・家庭	情報提供	15
0	学校	相談のみ	2
14	経済・生活	VC連携	1
3	福祉サービス	職員対応	16
0	いきがづくり	継続	13
5	保健・医療		
7	体調・病気		
22	その他		
61	計	計	61

### 相談方法



- (4) 個別訪問(アウトリーチ)による生活課題の相談対応
- (5) 介護用品等に関する相談対応

延べ 654 件  
0 件

制度やサービスの隙間にある方への個別支援体制を強化し、各専門職と連携し、個々の課題に応じた伴走的な支援体制づくりにむけて取り組みました。

(1) **生活困窮者自立支援法に基づく自立支援**

総合相談窓口として相談を受付け、各機関と連携し対応に努めた

- ▶ 県・中央東福祉保健所・県社協・嶺北4町村社協等と、支援についての協議、連携
- ▶ 関係機関、各団体等の会合・あったかふれあいセンター等に参加し、協力依頼、情報収集
- ▶ 定期的に各支所、図書館、書店、コンビニ等に関連チラシ等配布、協力依頼、情報収集
- ▶ 各事業所等において雇用に関する協力依頼
- ▶ プレ支援会議が定期的に開催され、各関係機関との連携や、支援が必要な住民に対する効果的なアプローチについて意見交換
- ▶ 県社協フードバンクと連携し、食糧支援
- ▶ 嶺北地域出張ハローワーク開設協力  
各関係機関の協力を得て、嶺北4ヶ町村担当が連携して出張ハローワークの開設を要望。平成29年5月から実施
- ▶ 子ども食堂「子ども元気村」の開設支援
- ▶ 研修会、説明会、連絡会等へ参加 25 回
- ▶ 個別訪問等で情報収集、要支援者支援 延べ 213 件
- ▶ 自立相談支援機関受付件数 19 件
  - ・ プラン作成 5 件 (うち前年度から継続3件)
  - ・ 同意に向けて取り組む 0 件
  - ・ 他機関につなぐ 10 件
  - ・ 情報提供のみで終了 4 件
  - ・ 相談継続 3 件
  - ・ その他(窓口で完結、打ち切り、解決) 0 件

(2) **相談支援員・主任相談支援員配置による支援体制整備** 各 1 人

(3) **障害者総合支援法に基づく計画相談及び自立支援**

- 一般相談事業を受託し、障害(児)者の相談支援を実施した
  - ▶ 土佐町 33 人 対応時間 210.83 時間
- 指定特定相談支援事業(計画相談支援)の状況(平成30年3月末現在)
  - ▶ 土佐町 20 人

(4) **日常生活自立支援事業による生活支援**

○ 高齢者や障害者の方などが自分ひとりで判断することが難しくお困りの場合に、安心して日常生活が送れるように支援に努めた

- ▶ 利用者 2 人 (認知症高齢者1人・知的障害者1人)
- ▶ 利用内訳 日常的金銭管理サービス 1 人  
書類などの保管サービス 1 人
- ▶ 関連支援 制度利用準備中 3 件

(5) **生活支援員による支援体制整備**

- ▶ 担当者 専門員(職員)1人 + 生活支援員 1人

(6) **低所得者層への福祉資金貸付けによる自立生活への支援及び償還指導**

- ▶ 生活福祉資金貸付事業委託事務
- ▶ 県社協の行う貸付事業に対し、民生児童委員協議会とともに、債務者への償還指導ならびに、貸付相談に応じた

平成30年3月31日現在 貸付件数	3 件
平成29年度 新規貸付	0 件

相談2件あるも事業非該当で貸付なし

○ 小口生活福祉資金貸付事業(自主財源:500,000円)

低所得者の在宅生活の自立更正を図るための相談に応じ、適切な資金貸付を実施し、償還指導に努めた

- ▶ 

平成30年3月31日現在 貸付件数	1 件	(内保護費受給者0人)
-------------------	-----	-------------
- ▶ 平成21年度 貸付滞納件数 1 件 (最終償還日 H26.9.1)
- ▶ 平成29年度 新規貸付 0 件

相談1件あるも事業非該当で貸付なし

(7) **介護家族会の開催**

6 回

(8) **認知症サポーター養成等理解促進のための学習会を開催**

○ 認知症等要援護者支援体制整備推進事業

- ▶ あじさいネット会議の開催 1 回
- ▶ 多職種協働による事例検討・ケアパス検討会を実施 1回
- ▶ 認知症予防及び見守りについての啓発活動

テーマ	月日	参加人数	講師
認知症予防コンサート	10月10日	58 人	岡田孝夫・尹敏明(クラリネット・ピアノ奏者)

▶ キャラバンメイトに向けたフォローアップ学習会

テーマ	月日	参加人数	講師
回想法について学ぼう	2月5日	5人	北村保健師・田岡保健師

▶ キャラバンメイト養成研修会へ参加 未実施

▶ 認知症サポーター養成講座

テーマ	月日	参加人数	講師
認知症サポーター養成講座	10月17日	21人	川田美代子(キャラバンメイト)

▶ 認知症の方も役割を持てる地域づくりを目指しプレ会議(4回)を開催。  
認知症の方や家族・地域住民・専門職等が参加できる集いの場づくり

テーマ	月日	参加人数	講師
「よくわかる！認知症についての話」	7月31日	41人	伊藤楯男(キャラバンメイト)
おいしいコーヒーの入れ方ミニ講座			長野直樹
「手のぬくもりがもたらす効果」についての講話と体験	10月3日	21人	橋本有子(セラピーティックケア療法士)
お正月にむけてお花を活けましょう	12月26日	10人	伊藤孝恵
料理は脳トレ？一品料理をアレンジしてみよう	2月27日	10人	今野身和子(管理栄養士)

▶ あったかふれあいセンター集いにて認知症の方をサポート

あったかふれあいセンター平石の集いにてキャラバンメイトによる支援 7回

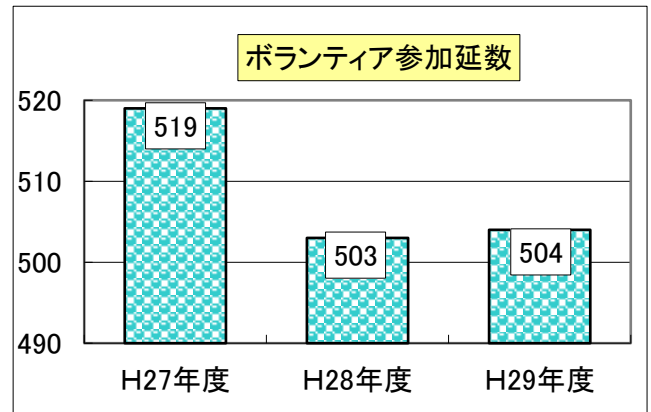
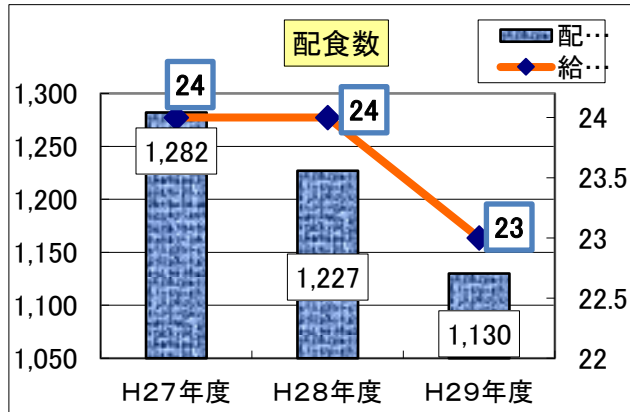
▶ 認知症の方も楽しめる集いの場づくり

テーマ	月日	参加人数	講師
回想法体験	6回	83人	和田純一、筒井京野、伊藤資子 (キャラバンメイト)

(9) 老人給食を活用した声かけ訪問による状況把握

- ▶ 給食日 23回 1/24積雪の為中止
- ▶ 対象者 85歳以上独居高齢者又は会長が必要と認めた者  
独居高齢者(月2回) 66人
- ▶ 総配食数 1,130食
- ▶ ボランティア 調理 210人 配食 294人 延 504人  
(内民児委員) 調理 78人 配食 94人





(10) 傾聴ボランティアによる寄り添い関係の構築

○ 傾聴ボランティア活動により、継続的な見守りと孤立予防活動が促進された

▶ 対象者 6 人 14 回

(11) 在宅福祉サービスの苦情処理対応

1 件

(12) 地域包括支援センターをはじめ、行政や民児協等関係機関(者)との連携

による協働支援(ケース会の実施)

35 回

内ネットワーク面談22回

必要な支援・サービスを受けられるよう、細やかなニーズ把握を行うと共に、自然災害や事故・犯罪に巻き込まれないよう日常のつながりづくりを強化しました。

(1) 民児委員・福祉推進員による地域の実態把握

随時

(2) 民児委員と連携したふれあい郵便の発送

年間対象者 32 人 12 回

(3) 旧小学校区における地域見守り支援体制づくり(で愛ふれ愛たすけ愛懇談会)

▶ 実施に向けて検討

(4) 警報発令時の声掛けの定着化

民児協等意識啓発

1 回

(5) 高齢者世帯防火防災点検の実施

○ 嶺北消防署、本山警察署、四国電力と協力して、独居高齢者本人と住居に対しての防火点検、防犯意識の啓発を実施

▶ 4 月 20 日 対象世帯: 6 世帯( 6 人) 実施地区; 栗ノ木・平石

○ 嶺北電気工事業組合のボランティア事業で、電気に関する点検や配線の簡易な修理を4年に1度巡回実施

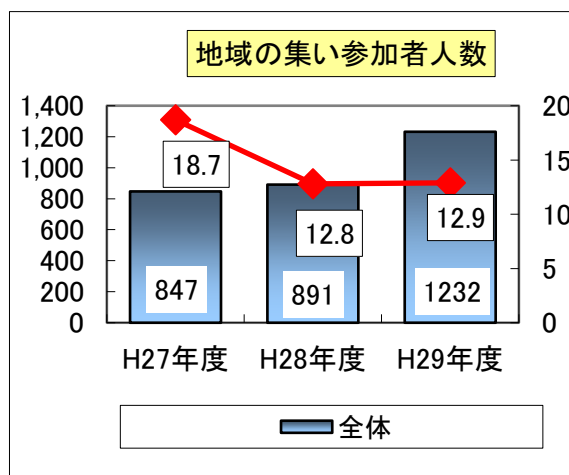
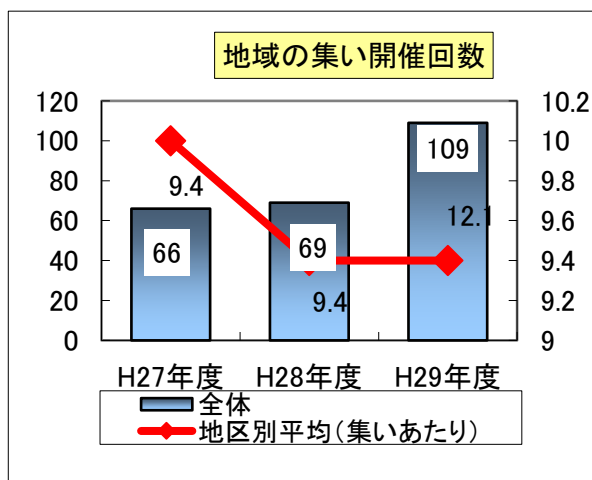
▶ 8 月 25 日 対象世帯: 12 世帯( 13 人) 実施地区; 上ノ土居・中村・大谷

- (6) 町外の家族とのつながりづくりにむけた検討 実施無
- (7) 民児協と連携した学校・保育・保護者とのつながりづくり  
 ▶ 民児協・教育委員会・学校と検討し、つながりづくりの為の活動を実施
- (8) 障害(児)者のいる世帯への防犯・防災への啓発 実施無
- (9) 見守り協定団体・警察との連携会議の実施 実施無
- (10) 要保護児童対策地域協議会へ参加し連携強化 2 回
- (11) 嶺北地区自立支援協議会へ参加し障害者の課題解決にむけた取り組み 7 回  
 就労支援部会準備会 3 回  
 相談支援部会 4 回  
 集える場づくりプロジェクト会 4 回  
 ※相談支援部会で「集える場所」について検討。嶺北各町村で足固めをしつつ、理解促進・啓発の為の学習会を企画運営する。

健康福祉課や関係機関との連携を強化し、ふれあいの場づくりを推進するとともに、外出支援体制をつくりました。

- (1) 車椅子貸し出し 12 回
- (2) フィールド医学事業と連携し、介護予防普及啓発事業(町受託)の推進  
 ○ 地域での転倒予防体操普及に努めた  
 ▶ 地域の集いにおける転倒予防運動の実施

実施集い人	回数	参加人数		備考
		実人数	延べ人数	
中島ふれあいの集い	8	22	110	
上野・田井ふれあい喫茶	9	35	196	
八反坪	7	8	36	
桜会	11	21	106	
上ノ土居の集い	7	21	84	
田井なでしこふれあいの集	9	38	189	
泉の里	11	11	72	平成27年度～
舞田の集い	11	20	119	平成28年度～
三島会	36	11	320	平成29年度～
合計	109	187	1,232	



▶ あったかふれあいセンターにおける転倒予防運動の実施

サテライト拠点	回数	参加人数		備考
		実人数	延べ人数	
平石	11	20	149	
地藏寺	28	28	373	
和田	11	19	130	
森	11	20	147	
石原	14	29	219	
松ヶ丘	11	21	195	
相川	11	26	141	
南川	13	11	69	
黒丸・下瀬戸	3	10	22	
とんからりんの家	177	41	2,890	
合計	290	225	4,335	

▶ 老人クラブとの連携による転倒予防運動の実施

団体名	回数	参加人数		備考
		実人数	延べ人数	
土居和みの会	9	22	97	

- ・ サポーターとして体操教室(地域のつどい)へ参加 延べ 158 人
- ▶ トレーニングサポーター養成講座開催 未実施
- ▶ 浜田りえ理学療法士指導による体力測定や、前田郁健康運動指導士による体操教室  
19ヶ所 258人
- ▶ トレーニングサポーターフォローアップと地域住民を対象としたウォーキング教室を開催  
1回 28人
- ▶ 若い世代に向けての普及啓発教室を開催(からだまるごと健康講座)  
(保健師、運動指導士、音楽療法士、ダンス講師)  
2回 57人

- ▶ 自主運営体操教室開催支援(舞田の集い、八反坪) 19回
  - ・ 自主運営に向けた準備 (CD・スタンプ等体操グッズ準備)
- (3) 介護予防等の事業における送迎
  - あったか強化事業により、送迎の充実が図れた
- (4) ひとりぐらしの集いの実施と事業の見直しを検討した
  - ▶ あったかふれあいセンターへ誘い出し訪問を実施
- (5) 身障協等と連携し、社会参加への取り組みを協議
  - ▶ 高知市への外出支援 1回
- (6) 行政、ボランティアと連携し「やまびこ倶楽部」等で地域とのつながりを支援
  - ▶ やまびこ倶楽部 7回
- (7) 障害者の移動手段確保
  - ▶ 送迎のニーズには全部対応した
- (8) どんぐりにおける外部就労体験の場づくりを支援
  - ▶ JA・清掃事業等への就労支援
  - ▶ 三島ファームでの作業
  - ▶ 「土佐町ものがたり」Tシャツプリント作業

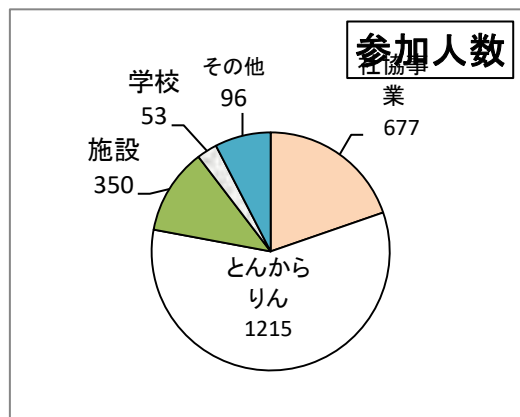
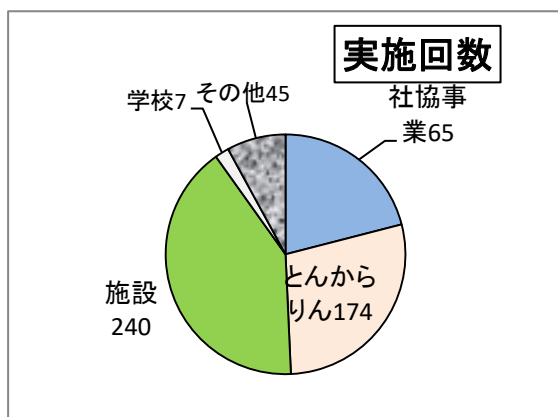
## ◆地域福祉部門◆

センターの役割や、ボランティア活動の見える化をすすめるため、広報・啓発を強化しました。

- (1) ほにゃらら新聞の発行 3回 (1,340部/1回)
- (2) ボランティアに関するパンフレット作成・利用
  - ▶ ボランティア活動募集のチラシをつくり配布をした
- (3) 社会福祉大会等活動発表の場づくり
  - ▶ 活動発表 ⇒ 土佐町中学校2年生、土佐町小学校4年生  
赤い羽根共同募金の取組み
  - ▶ 実践発表 ⇒ 四国地域福祉実践セミナーにて実践発表  
社協中堅職員研修にて実践発表
- (4) TV放送・新聞・他機関の発行する冊子等への掲載
  - ▶ 福祉教育の取組みが放映され、新聞記事にとりあげられた

ボランティアの養成、登録を推進し、それぞれの年代が、参加しやすい活動を推進しました。

- (1) 個人・団体の登録を推進 27 団体(1,316人)      個人    46 人
  - ▶ 機材貸出しや印刷機利用など登録団体への支援を行った
- (2) ボランティア登録・相談及び実績記録を整備した



- (3) **ボランティア活動推進のための協議会を設置**  
設置に向けて職員間で協議を行い、30年度の取組みにつなげた
- (4) **企業へのボランティア活動普及のための訪問**  
NPOへの訪問活動を実施 7 回
- (5) **児童生徒・PTAへのボランティア活動の促進**
- ▶ 嶺北高校生 あったかふれあいセンター長期休暇プロジェクトへのボランティア募集
  - ▶ 土佐町中学校1年生 総合学習にて自分達でできるボランティア活動実践
  - ▶ ほにゃらら新聞を通じて、ボランティアプログラムを紹介した
- (6) **ボランティアに関する研修への参加**
- ▶ 5 月 21 日 市町村社協ボランティア事業に関する意見交換会 1 人
  - ▶ 8 月 21 日 福祉教育・ボランティア学習実践講座 1 人
  - ▶ 12 月 9 日 愛媛県 福祉教育研究協議会 2 人
- (7) **ボランティア養成講座の実施**
- ▶ ボランティア基礎講座(寄せ植え) 18 人
  - ▶ ガイドボランティア養成講座 19 人
- (8) **ボランティアに関する調査実施・情報収集**
- ▶ NPOへのニーズ調査と連絡会の開催にむけた訪問 7 回
  - ▶ 地域福祉部会にて検討 1 回
  - ▶ ボランティアガイダンスに参加し情報収集
  - ▶ 地域づくり市町村行政とNPO等ネットワーク研修会に参加し情報収集
- (9) **見守り 声掛けボランティアの推進**
- ▶ 地域福祉活動計画懇談会での協議の際、促進を図った
- (10) **日常行われている地域でのボランティア活動の見える化**
- ▶ ほにゃらら新聞にて紹介 3 回
  - ▶ フェイスブックにて紹介
- (11) **家庭でできるボランティア(プチボラ)推進**
- ▶ ほにゃらら新聞にて記事掲載 3 回

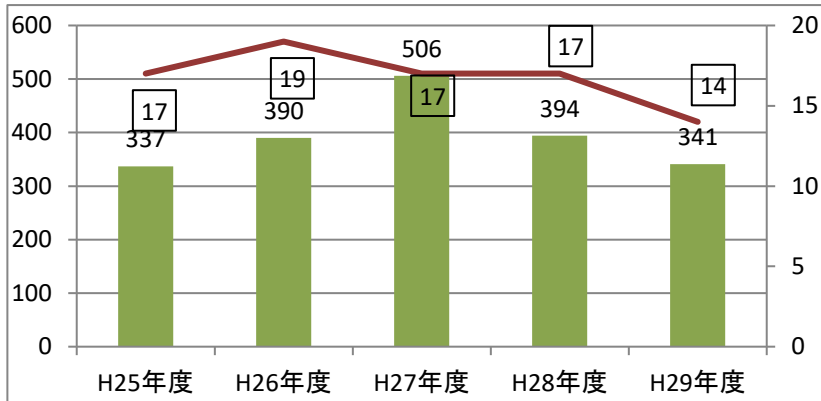
(12) **新たなボランティアの発掘**

○ こどもげんき村(こども食堂)の立ち上げを支援し、ボランティア活動による拠点づくりをすすめた

- ▶ 新規登録者 9 人
- ▶ 新規登録団体 2 団体

(13) **ボランティア活動保険への加入促進**

29年度保険加入件数 14 団体 341 人



(14) **ファンドレイジング等資金づくりにむけた学習・研修参加(未参加)**

(15) **災害ボランティアセンターの訓練及び研修**

- ▶ 12 月 11 日 ~ 12 月 12 日 2 人
- 災害ボランティアセンター運営研修(岡山県)

(16) **NPO・ボランティア団体への活動支援**

○ 企業、団体の活動支援とボランティア募集を行った

- ▶ 6 月 21 日 佐々井秀嶺さん講演会
- ▶ 6 月 18 日 平石あめごつかみ大会
- ▶ 6 月 4 日 相川らららウォーキング
- ▶ 7 月 8 日 ファニーマリンバミニコンサート
- ▶ 7 月 26~28 日 サニーマートムソーヤアドベンチャースクール
- ▶ 8 月 16~18 日 レイホクゴロワーズ
- ▶ 8 月 18 日 石原サマースクール
- ▶ 9 月 3 日 だれでもかかるよ心の病気
- ▶ 10 月 1~9 日 下田昌克さんがやってくる
- ▶ 10 月 7 日 ハピネススポーツクラブ体験
- ▶ 10 月 21 日 TOSS五色百人一首協会高知県支部活動支援(中島のつどいにてふれあい文化教室開催)
- ▶ 10 月 29 日 高知県網膜色素変性症協会主催講演会
- ▶ 11 月 8 日 湖畔マラソン大会
- ▶ 11 月 19 日 相川ららら~お米がとれたよ~
- ▶ 12 月 16 日 厄除けづくり

(17) ボランティア団体・関係機関とのぼらせん交流会の実施

- ▶ 未実施

(18) レク資材・印刷機等貸し出し

- ▶ レク資材 プロジェクト用資材 29 回
- ▶ 印刷機利用 8 回

学校・地域・教育委員会と連携し、福祉教育・ボランティア学習をより充実させることにより、次世代を担うボランティアの育成に努めました。

(1) 保・小・中・高との連携のための会議開催

- ▶ 土佐町小・中学校校長と小・中総合学習の系統などについて協議 1 回
- ▶ 嶺北高校とキャリア教育支援事業についての協議 1 回
- ▶ みつば保育園との事業打ち合わせ 1 回

(2) 教職員・行政職員等にむけた福祉教育の研修会開催(未実施)

(3) 授業カリキュラム作成へのサポート

- ▶ 土佐町中学校1～3年生総合的な学習の時間等への支援 22 回
- ▶ 土佐町小学校6年生防災学習 1 回
- ▶ 嶺北高校1～3年生福祉の人材育成にむけたキャリア教育 5 回

(4) 学校応援・授業支援ボランティアの調整

- ▶ 土佐町中学校授業講師のコーディネート 5 回 20 人 (延べ)
- ▶ 土佐町中学校2年生職場体験コーディネート 2 回
- ▶ 土佐町中学校1・3年授業地域住民ボランティア調 2 回
- ▶ 嶺北高校授業講師のコーディネート 1 回 7 人
- ▶ 嶺北高校職場体験コーディネート 12 回



第5次地域福祉活動計画が住民に浸透するよう努めると共に、住民・行政・社協が協働できる体制をつくり、目標達成にむけた地域活動の支援を強化に努めました。

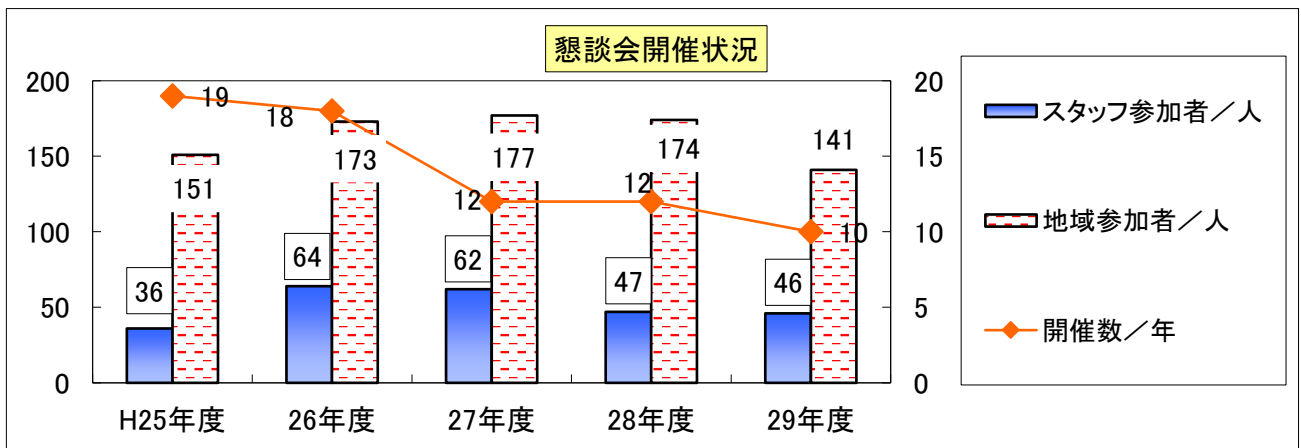
(1) 地域アセスメントシートを活用した地域支援

- 地域アセスメントシートを更新。評価委員に配布し共有した

(2) 住民同士の話し合いの場づくりを支援(旧小学校区)

- 活動目標の達成に向け、活動計画を推進する懇談会を旧小学校区単位で実施した

10回



- 活動目標推進に向けた推進団体等の話し合いへの支援を行った

24回

- ▶ 相川13回、松ヶ丘7回、平石2回、地藏寺1回、田井1回

(3) 地域活動支援交付金の活用を促進

- ▶ 地区長会にて交付金の説明
- ▶ 各小学校区の懇談会にて交付金の申請を促進
- ▶ 平石・相川・石原の3小学校区が、活用
- ▶ 寄付者に支援金の使途について通知

(4) 中・高・大学生の参加促進

- ▶ 相川→イベントを通じて小学生から高校生まで幅広いボランティアの協力を得た
- ▶ 石原→役場地域担当と連携し、高知大学地域協働学部の学生受け入れ
- ▶ 平石→高知大学えんむすび隊と校舎活用についてのワークショップ開催

(5) 支援員・協力隊等地域支援における連携会議開催及び協力体制づくり

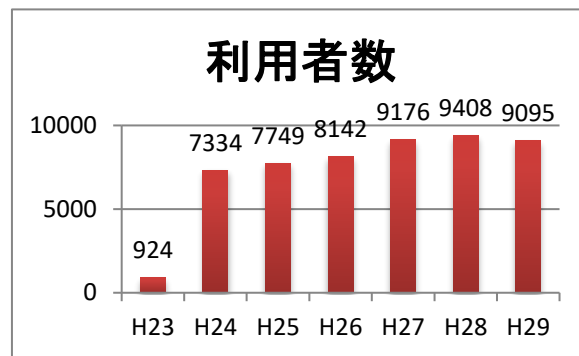
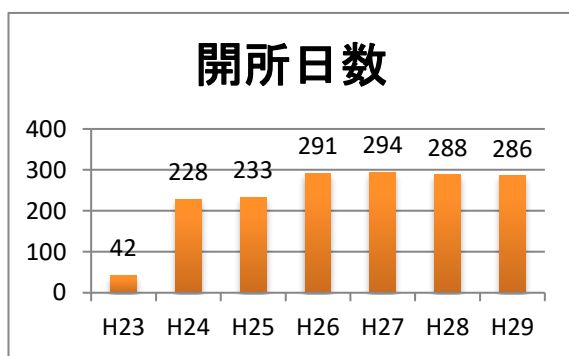
- ▶ 集落支援員・産業振興課・健康福祉課・社協の連絡会を開催 12回
- ▶ 役場地域担当者リーダー会議に参加 3回
- ▶ 役場地域担当者会に参加 16回

専門職等との連携を強め、あったかふれあいセンター機能の充実を図りました。また、住民同士の支え合いの拠点づくりを進め、いつでも気軽に利用できるセンターづくりを進めました。

(1) **10か所におけるサテライト開設**

○ あったかふれあいセンター事業を受託し、サロンコーディネーターを2人を継続雇用した

▶ ① 集う	286日	延べ	9,095 人
▶ ② 交わる(地域間交流・保育園児・視察 他)	70日	延べ	2,625 人
▶ ③ 学ぶ	60日	延べ	1,440 人
▶ ④ 送る	216日	延べ	1,774 人
▶ ⑤ 外出支援	10日	延べ	154 人
▶ ⑥ 訪問	54日	延べ	622 人



(2) **利用していない方等へのアプローチ (訪問)**

○ センター開設時間に地域訪問をするなどしてあったかふれあいセンターの利用を推進した。

(3) **異世代・地域外との交流の機会をつくる (交流)**

▶ 夏休みプロジェクト	4 回	214 人	(高齢者 39人、他 39人、子ども 153人)
▶ 冬休みプロジェクト	1 回	70 人	(高齢者 6人、他 39人、子ども 25人)
▶ 春休みプロジェクト	1 回	37 人	(高齢者 11人、他 1人、子ども 22人)
▶ みつば保育園児交流	5 回	450 人	(高齢者69人、他 10人、子ども371人)
▶ 地域外の方との交流	0 回	0 人	

(4) **学習プログラムなどを取り入れ機能を強化する (学ぶ)**

60 回 1460 人 (高齢者1170人、他246人、子ども44人)

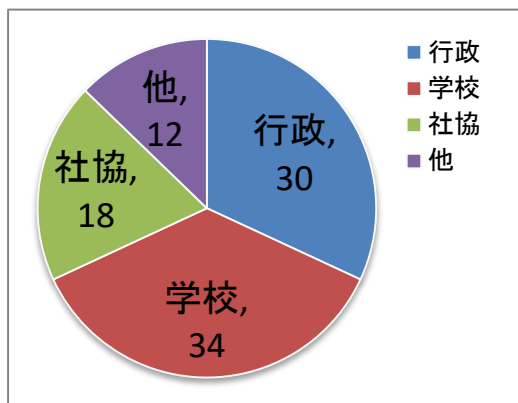
(5) **運転手の確保等送迎体制の充実(送迎)にむけ行政と検討**

○ ゆうあい号・バスを有効活用し送迎の支援をした

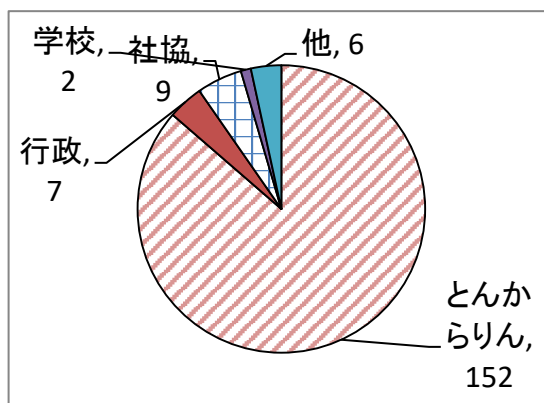
あったか強化学業において、送迎における運転手雇用継続ができた。

▶ あったかサテライトと集いの実施地区におけるお出かけの送迎		
	あったか拠点	11 回
	集い	5 回

社協バス 利用回数 99回



ゆうあい号利用回数 176回



(6) あったかふれあいセンターへのボランティアコーディネート 189回 1,357人

- 長期休暇に子どもたちが地域の方とふれ合えるプロジェクトを実施し、高校生などのボランティアの参加につながった。

(7) 各集い 全体会の実施

- ▶ あったかフェスティバル 231人
- ▶ 地域の集い連絡会 7人

(8) 拠点化と集いを支えるスタッフの配置

- あったかふれあいセンター強化事業を受託しパート職員配置 5人
- サテライト開設時の送迎運転手をシルバーより派遣し配置 1人

(9) 包括、保健師と連携した利用者ケア会議の実施

- 訪問活動の目的を見直したので、昨年度までの会議を実施していないが、訪問時や集いで的气氛をつないだ

(10) 住民の役割・出番づくりと自主運営への支援

- ▶ 移住者や県内外からのボランティア活動支援
- ▶ あったかフェスティバルでの出番づくり
- ▶ 森郷ミニ八十八か所では町内外のボランティアによりマップ作りや、ガイドボランティア、環境整備等の自主的な活動に広がりがみられる。